

製品名: ヒストン H4 (アセチル Lys16) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab06213

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:300
分子量	11kDa

抗原情報

遺伝子名	HIST1H4A HIST1H4A; H4/A; H4FA; HIST1H4B; H4/I; H4FI; HIST1H4C; H4/G; H4FG; HIST1H4D; H4/B; H4FB; HIST1H4E; H4/J; H4FJ; HIST1H4F; H4/C; H4FC; HIST1H4H; H4/H; H4FH; HIST1H4I; H4/M; H4FM; HIST1H4J; H4/E; H4FE; HIST1H4K; H4/D; H4FD; HIST1H4L; H4/K; H4FK;H4k16AC
別名	
遺伝子 ID	121504/554313/8294/8359/8360/8361/8362/8363/8364/8365/8366/8367/8368/8370
SwissProt ID	P62805
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H4 の Lys16 のアセチル化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

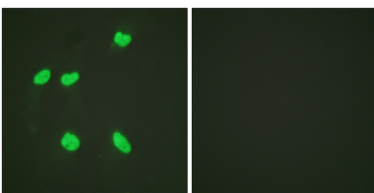
背景

ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。4つのコアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) はそれぞれ2分子ずつ集まって八量体を形成し、その周囲に約 146 bp の DNA がヌクレオソームと呼ばれる繰り返し単位に巻き付いています。リンカーヒストンである H1 は、ヌクレオソーム間のリンカー DNA と相互作用し、クロマチンを高次構造に凝縮する役割を果たします。この遺伝子はイントロンを含まず、ヒストン H4 ファミリーに属する複製依存性ヒストンをコードしています。この遺伝子の転写産物はポリ A 末端を欠き、代わりに回文終結配列を含みます。この遺伝子は、染色体 6p21.33 のヒストンマイクロクラスターに存在します。[RefSeq 提供、2015 年 8 月]、機能: ヌクレオソームのコア構成要素。ヌクレオソームは DNA を包み込み、クロマチンに圧縮することで、DNA を鋳型として用いる細胞機構への DNA のアクセスを制限します。そのため、ヒストンは転写調節、DNA 修復、DNA 複製、そして染色体の安定性において中心的な役割を果たします。DNA のアクセス性は、ヒストンの複雑な翻訳後修飾 (ヒストンコードとも呼ばれます) とヌクレオソームリモデリングによって制御されます。、PTM: Lys-6、Lys-9、Lys-13、および Lys-17 のアセチル化はゲノムのコード領域で起こりますが、ヘテロクロマチンでは起こりません。、PTM: PADI4 による Arg-4 のシトルリン化はメチル化を阻害します。、PTM: Lys-21 はモノメチル化、ジメチル化、またはトリメチル化されます。モノメチル化は SET8 によって行われます。トリメチル化は SUV420H1 と SUV420H2 によって行われ、遺伝子サイレンシングを誘導する。、PTM: PRMT1 による Arg-4 のモノメチル化は、Lys-9 と Lys-13 のアセチル化を促進する。脱メチル化は JMJD6 によって行われる。、PTM: SUMO 化は転写抑制に関連する。、PTM: 紫外線照射に応答して CUL4-DDB-RBX1 複合体によってユビキチン化される。これにより、ヒストンと DNA の相互作用が弱まり、修復タンパク質への DNA のアクセスが容易になる可能性がある。、類似性: ヒストン H4 ファミリーに属する。、サブユニット: ヌクレオソームは、H2A、H2B、H3、H4 のそれぞれ 2 分子を含むヒストン八量体であり、1つの H3-H4 ヘテロ四量体と2つの H2A-H2B ヘテロ二量体に組み立てられる。八量体は、約 147 bp の DNA を包み込む。、

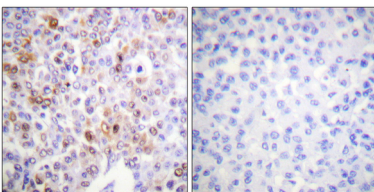
研究分野

タンパク質アセチル化

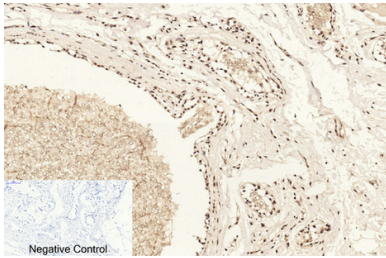
画像データ



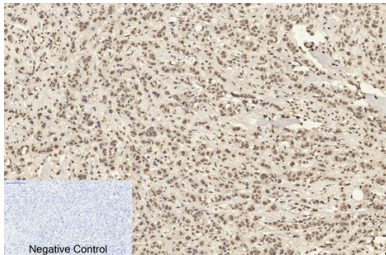
ヒストン H4 (アセチル-Lys16) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



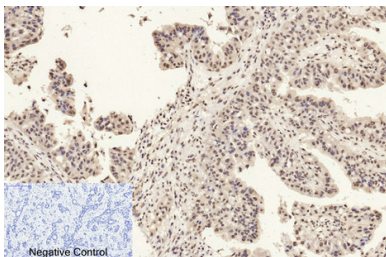
ヒストン H4 (アセチル-Lys16) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



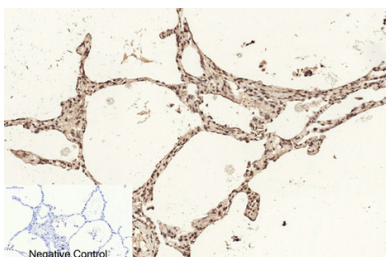
パラフィン包埋ヒト乳房組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



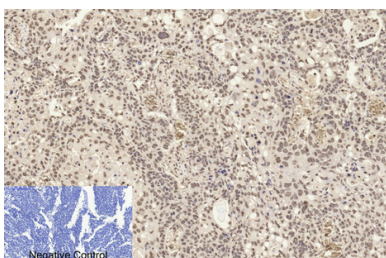
パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



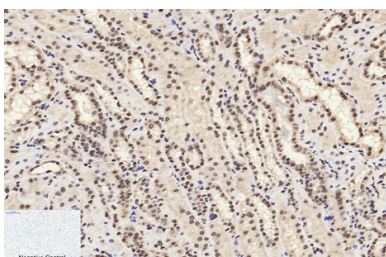
パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



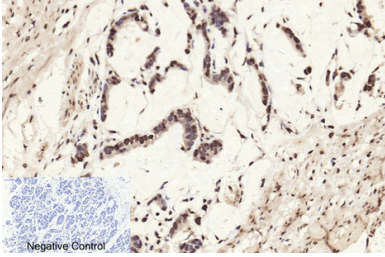
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト腎臓癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H4 (アセチル Lys16) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。